

令和元年度

# 天塩川シーニックバイウェイ 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 天塩川シーニックパイウェイ	報告者: 天塩川シーニックパイウェイルート運営代表者会議	2020/4/30
----------------------	------------------------------	-----------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R1					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	メインコース周辺の景観整備	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「TEPPEN-RIDE2019」のコースについて、昨年度までの実施状況をふくめた見直し・検討のため、ルート内の地域資源やビューポイント箇所について、ルートメンバーで現地の確認を行った。</li> <li>●各市町村の商工会等を中心に、沿道の花植えを実施し、安心・安全・快適なおもてなしの道づくりを目指し、継続的に実施。</li> <li>●川の清掃「天塩川クリーンアップ大作戦」(7月)は、広域でポスターを作成しPRしているが、各地域での個々の取組が実施時期が違い、参加状況などの把握が難しいなどの課題が残った。</li> </ul>
			ルートの景観診断	-	-	-	-	
			花植え活動、除草、清掃活動	各団体にて(市町村、観光協会、商工会、地域団体等)	夏期:6月～10月末頃	各地域により		
地域	地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり	歴史・文化と森林文化の活用	森林資源の活用	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	7月～10月末まで	-		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に根付き、末永く愛着を持ってもらえるよう、地元木材を利用したオリジナルサイクルラックを地元で作成し、開発局のサイクルツーリズムの「モデルルート1」のコースを中心に設置した(主に道の駅)。また、モデルルートの地域内で、設置の要望もあり、販売した。サイクルリングコース上に同じラックが点在するようになり、統一感が出た。</li> <li>●ルート内へ訪れる観光客やツアー団体等からのガイドの依頼に対し、適切な案内ができるよう、サイクリングのツアーガイドの養成講座を実施した。広く周知したため、地域外の釧路や札幌からも参加があり、お互いの地域での状況なども共有できた。</li> <li>●本実施での資格取得者のうち、TEPPEN-RIDE2019でのガイドやサポーターとして5名に協力頂けた。</li> <li>●地元でのサイクリストも増えてきているため、今後もサイクルガイドの広がりに期待できる。今後はルート内のガイドを登録しHPなどで紹介するなど、広めていく工夫を行うことが必要と考える。</li> <li>●「川」に親しんでもらう企画として、旭川開発建設部治水課・名寄河川事務所とルートで「ミズベリング」を企画していたが、悪天候のため中止となった。次年度以降も引き続き、実施を検討する。</li> </ul>
			地域ガイドの発掘・育成 (サイクリングツアーガイド養成講座in名寄)	ルート運営代表者会議	6/19(水)・20(木)	参加者9名 講師1名	T - 1	
			「森林」&「水」の教育 (ミズベリング)	ルート運営代表者会議	台風の影響により中止	-		
			「松浦武四郎」にまつわる地域の文化伝承 (武四郎ライド2018)	なよろ観光まちづくり協会	雨天により中止 9/8(日)	参加者22名		

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R1					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	
観光	地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり	きた北海道エコ・モビリティ事業の推進 (主に、ルート内外を視野に入れた取組み)	ツアーの実施 (TEPPEN-RIDE 2019)	ルート運営代表者会議、宗谷 シーニックバイウェイ(きた北 海道エコ・モビリティ)	9/19(金)~21(日)	参加:10名 (途中参加10 名) スタッフ:15名		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「きた北海道エコ・モビリティ」事業の継続5年目の年であった。「TEPPEN-RIDE2019」を実施。目の行き届いたサポートと心あるおもてなし、安全管理などの評価を頂いた。</li> <li>●13社から協賛協力いただき、運営資金となり、大変ありがたいサポートであった。</li> <li>●シンガポールのサイクルガイド・旅行会社の人が参加し、次年度には自身の顧客を連れて、TEPPENを走りたいという話があった。文化が違うため、様々な課題もあるため、今後は海外からのサイクリストへも対応できるように努めていきたい。</li> <li>●総合商研主催のチカホでのイベント「夏JP01まつり」に、きた北海道エコモビリティの取り組み紹介やTEPPEN-RIDEのPR、パンフレットの配布等を行った。北海道の様々な地域と一緒にPRしているため、特産品を買い求める人が足を止めてくれたりと、大変好評に終了した。</li> <li>●オリジナルサイクルラックを、休憩ポイントの主要箇所でもあるルート内の道の駅等に設置できた。稚内開発建設部管内でも購入いただき、サイクリングコース内に共通で設置できた。</li> <li>●共通で使用できるルートロゴを使用した名刺や、イベント等でのパネル等に活用し、ルートPR、新たな仲間の増強、活動への参画、ルートに対する意識醸成を図った。</li> <li>●道と川と鉄道を繋ぐ旅「R3ツアー」を推奨するため、アクティビティと食・観光をテーマとした、プロモーション動画を作成した。モデルとなった女性2名がInstagramのフォロワー数がとても多く、撮影中の様子などを地名等をタグ付けてアップしたため、当エリアのPR効果に繋がった。</li> <li>●今年度は、新たな情報拠点の設置までには至らなかったが、情報が入手しやすい主要地点となる場所での情報拠点の設置を検討したい。</li> </ul>
			情報発信の強化 (PRイベントの実施)	ルート運営代表者会議、北海 道エコ・モビリティ研究会	8/2(金) 札幌(チカホ)	スタッフ 約20名	T - 2	
			勉強会等の開催 (道北ブランディングWS)	上川総合振興局、道北観光 連盟	12/3(月)・4(火)	-		
		ルート内連携による情報発信	ルートオリジナルロゴの作成 (ロゴの活用)	ルート運営代表者会議	通年	-		
			連携ポスター	-	-	-		
			各地イベントでのルートPR (PRイベントの実施)	ルート運営代表者会議、北海 道エコ・モビリティ研究会	8/2(金) 札幌(チカホ)	スタッフ 約20名	T - 2	
			情報拠点の設置 (よろーな)	ルート運営代表者会議	通年	-		
		地域産業の活用	ご当地グルメの開発	-	-	-		
			道の駅との連携	-	-	-		
		広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	メインコースの設定 (R3プロモーション動画の作成)	ルート運営代表者会議、宗谷 シーニックバイウェイ(きた北 海道エコ・モビリティ)	10月中旬	モデル2名 各地アテンド数 名	T - 3	
			ツアーの実施	-	-	-		

# 天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：サイクリングガイド養成講習会in名寄市

- 【概要】 地域内へ訪れるサイクリング旅行者へ、適切な案内及び地域の魅力を伝えるための地域内でのサイクリングガイド有資格者の育成を目的に、日本サイクルツーリズム推進協会（JCTA）の講師によるサイクリングガイド養成講座を開催し、サイクリングガイドのスキルアップを図った。JCTA認定に加え、スイスやカナダ、スペイン、イタリアとも連携しているイギリスのCycling UKのガイド資格も同時取得できるグローバルな資格となり、参加者は道北だけでなく、富良野や釧路、札幌から9名の参加があった。資格取得後は、ルートのサイクリングイベント等の地域サポートライダーとして協力いただくことも目的としており、取得者のうち、きた北海道エコ・モビリティ（TEPPEN-RIDE）のサイクリング担当のガイド・サポーターとして5名が参加した。
- 【日時】 2019年6月19日（水）・20日（木）の2日間
- 【場所】 名寄市：座学>駅前交流プラザ「よろーな」会議室  
実技>名寄市内周遊コース（一人3km×9名）
- 【主催】 天塩川シーニックバイウェイ 【人数】 受講者 9名、講師 1名



▲ツアーやイベントに際して、どのような準備を行い、運営していくのか、リスクを低減しアクシデントや事故を未然に防ぐにはどうするのか、起こった場合にどのように対処していくのかなど、座学と屋外での実践にて学んだ。

▲実技試験でのコース途中集合写真。受講者全員、サイクリングツアーガイド資格を取得した。

# 天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：情報発信の強化（PRイベントの実施）  
（きた北海道エコ・モビリティ事業の推進）

【概要】 シーニックバイウェイの周知徹底と活動内容のPRのため、札幌駅地下歩行空間で開催される「夏のJPO1まつり in ち・カ・ホ」にブースを設け、地域の特徴と魅力についてPRを行った。全地域の取り組み概要などのパンフレットの配布と、ルートの主たる活動である宗谷シーニックバイウェイとの連携事業「TEPPEN-RIDE」を中心にPRを行った。★道北観光連盟による特産品販売・PRとあわせた実施

【日時】 2019年8月2日（金）

【場所】 札幌駅前地下歩行空間「ち・カ・ホ」

【ブース主催】 天塩川シーニックバイウェイ

【会場全体主催】 総合商研

【参加団体数】 名寄市・士別市・下川町・和寒町＜当日スタッフ：20名程度＞



▲きた北海道エコ・モビリティの取り組み紹介と「TEPPEN-RIDE2019」の参加者募集も行った。会場共通のモニターを活用し、道北地域のプロモーション動画を投影し、当エリア全体のPRを行った。

▲用意した商品は完売し好評であった。道北観光連盟のPRブースでは、各自自治体のPRパンフレットを配布

# 天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：R3プロモーション動画の作成～道と川と鉄道を繋ぐ旅  
(きた北海道エコ・モビリティ事業の推進)

【概要】道（Road＝自転車・歩く）と川（River＝カヌー）と鉄道（Rail＝JR宗谷本線に乗車、駅弁）が並行する地域の地域性を活かし、3つのRを繋ぎ、美しい景観を見て＆自然に触れて遊び＆美味しいものを味わいながら、日本のてっぺんを目指す「R3の旅」を推奨するためのプロモーション動画を作成した。宗谷シーニックバイウェイとの広域連携「きた北海道エコ・モビリティ」の事業の一環とし、今後はエリア内全体に動画を広めていけるよう、効果的な活用方法の検討をすすめる。20～30代の女子旅をテーマとし、インスタグラマーなるモデルに依頼し、それぞれのInstagramなどでも、撮影の様子や地域の情報をアップしてもらい、PR効果を促した。

【実施】2019年10月上旬（撮影）～3月完成

【場所】1日目：旭川市～名寄市、2日目：名寄市～中川町、3日目：中川町～稚内市

【主催】きた北海道エコ・モビリティ（天塩川SBW／宗谷SBW／SBW支援センター）



▲食・観光・アクティビティ（自転車、カヌー等）の体験をしながらのPR動画の撮影を行いながら、自分達も撮影しInstagramに投稿。

▲投稿されたInstagramでは、主に動画での公開。

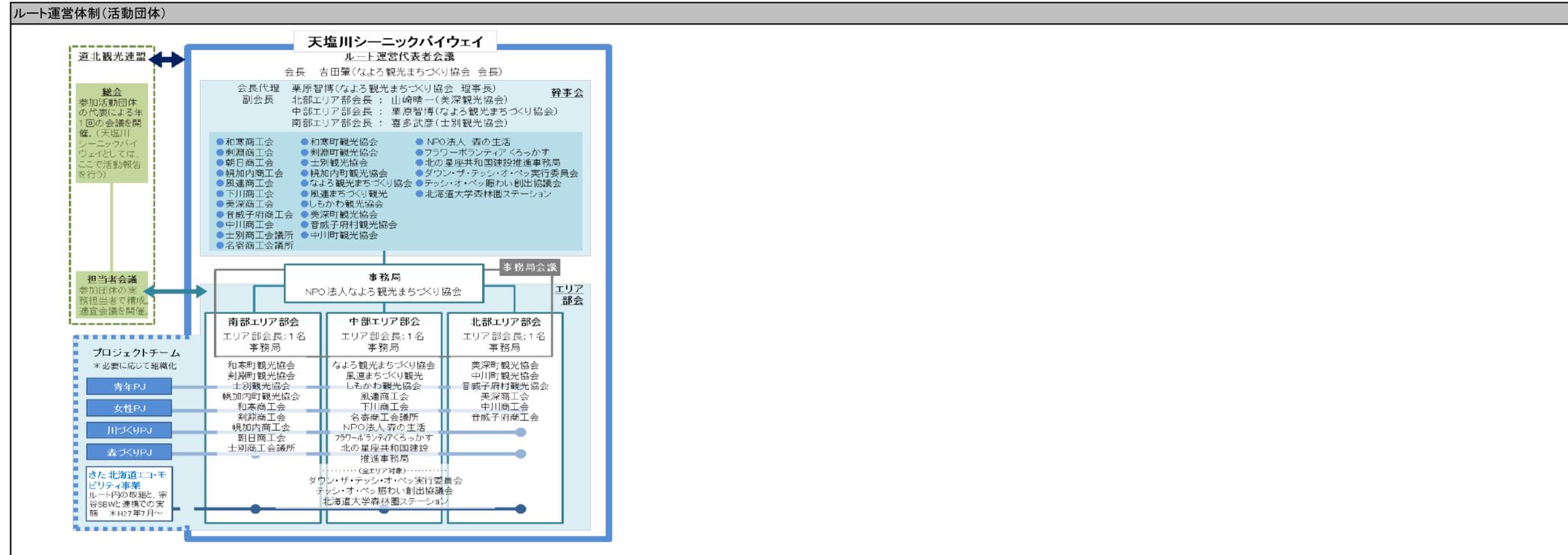
▲作成した動画の一画面（動画は約5分）

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2020/4/30
----------------------	------------------------------	-----------------

**活動団体**

和寒町観光協会／和寒町商工会／剣淵町観光協会／剣淵町商工会／士別観光協会／士別商工会議所／朝日商工会／幌加内町観光協会／幌加内町商工会／NPO法人なよろ観光まちづくり協会／NPO法人風連まちづくり観光／名寄商工会議所／風連商工会／NPO法人しもかわ観光協会／下川町商工会／美深町観光協会／美深町商工会／音威子府村観光協会／音威子府村商工会／中川町観光協会／中川町商工会／NPO法人森の生活／フラワーボランティアくろっかす／北の星座共和国建設推進事務局／テッシン・オ・ベツ賑わい創出協議会／ダウン・ザ・テッシン・オ・ベツ実行委員会／北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林園ステーション



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に関わる事項	ルート運営代表者会議			●6/25										
	ルート幹事会、事務局会議	●4/11 事務局	●5/31 事務局				●9/10 事務局 (TEPPEN打合)		●11/21 事務局					
	ルート担当者会議	●4/11							●11/21					
	その他			●6/19、20 サイクルガイド業 成講座実施		●8/2 ルート活動PR nJP01まつり	●9/19-21 TEPPEN-RIDE実 施 (宗谷SBWと連 携)	●10/19-21 R3-PR動画撮影 ●10/30 道北ブロック会 議、道北フォトコン 連携会議、ルート 協議会打合				●1/30 道北フォトコン連 携会議		

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2019/4/24
----------------------	------------------------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に関わる事項	行政連絡会議・協働型道路管理 マネジメント会議の実施				●7/12 幌加内官民協働 の除草作業実施						●1/17 上川北部協働型 道路マネ検討会	●2/17 幌加内協働型道 路マネ検討会		

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:天塩川シーニックバイウェイ	報告者:天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2020/4/30
---------------------	-----------------------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	令和元年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	そばの花ビューポイントの除草・清掃作業(幌加内)	7/12(金)	旭川開発建設部、幌加内町(住民、農家、観光協会、自治体等)	地域で設定したそばの花のビューポイントのうち、国道275号において、沿道の除草作業を地域と時期を調整して道路管理者の機械除草を行った。時期調整により、同時期に雑草のない美しい景観が広がる効果が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・官民協働での除草対策については、現在は全地域での実施ではないが、上川北部の他地域でも同様に展開できる可能性がある。</li> <li>・ルート(地域)の動向や意向をくみつつ、沿道の景観向上に向けて、必要な箇所をピックアップし、できるところから優先順をつけて実施していきたい。</li> </ul>	
地域	地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり	サイクルラックの設置における道の駅との調整	-	-		<p>本年度は特にないが、ルート(地域)のみでは、内容によっては調整に困難で時間を要することもある行政連絡会議の関係機関や道の駅などとの連絡・調整は開発局の強みである。日頃からルートとの密な情報共有を心掛け、ルートの取り組み等に合わせた情報発信などを心掛けていきたい。</p>	
観光	地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり	きた北海道エコ・モビリティ(TEPPEN-RIDE)に関する関係機関との調整	7月中旬~9月	旭川開発建設部、きた北海道エコ・モビリティ(*天塩川シーニックが事務局)	ツアー実施に合わせて、広報PRの支援を行った(募集チラシの配布)、旭川(出発地)での当日スタッフ(お見送りまで)として協力した。また、サイクルツーリズムで設定されたモデルコース1号のPRを合わせて行った。	<p>先進的な取組である「きた北海道エコモビリティ」において、取り組みの継続に向けた地域活動団体との密な情報共有を図り、内容により積極的に協力していく。</p>	
		「きた北海道サイクルツーリズム連絡会議」に関する資料作成・とりまとめ、及び、関係機関との調整	10月~3月	旭川開発建設部、稚内開発建設部、上川総合振興局、宗谷総合振興局、天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、他	天塩川シーニックバイウェイを含む広域連携による「きた北海道サイクルツーリズム連絡会議」として、北海道サイクルルート連携協議会への申請のための資料作成の補助や検討結果のとりまとめ、関係機関等への調整などを行った。		
		イベント会場でのシーニックPR支援	8/2(金)	旭川開発建設部、ルート運営代表者会議、道北観光連盟	推進協議会から情報提供いただいた総合商研主催のイベント「夏・JP01まつりinチカホ」にて、シーニックPRブースを設置支援し、ルートのパンフレット配布などを協働で行った(当日の会場運営スタッフとして参加)。PRの相乗効果を狙い、道北観光連盟の特産品販売とあわせてため、多くの人に立ち寄ってもらえた。北海道開発局のサイクルツーリズムの紹介や、道北フォトコンテストなど広域で連携している内容についてもPRを行った。		
その他							